

鳥のように飛びたい

大月 和彦

幼稚園に通う姉妹が居間の床に本を広げている。絵本を見ていた妹が突然声を出して読み始めた。

「すのふちに たちなさいと、おかあさんは いいました。それから、あたまを うしろに そらせ、はねをばたばたと やって、さっと とびだすんです。そして、いしがきのうえまで いったら、きょうのおけいこは、それで おしまい。そこで ちいさなすめは、すのふちに たちました。そして、むねをそらせ、はねを ばたばたと やって、さっと まえへ とびたちました。すると、おどろいたことに、こすめは じめんにおちずに ちゃんと くらうちゅうに うかんでいました」

これは、幼児向けの絵本『こすめのぼうけん』の一部である。母スズメから飛び方を教わった子スズメが、夢中になって遠くまで飛んでいき、疲れ果ててしまう。カラスやヤマバトなどの巣に休ませてくれと頼むが断わられ、途方に暮れていると、心配した母スズメが来ていっしょに巣に帰る、という話。その冒頭部分―木鳶の巣で育ち、翼を動かせるようになった子スズメに飛び方を教える場面である。

妹はストールの上に立ち、両手を上下に振りながら座布団の上に飛び降りた。もう一度この部分を読んでから飛び降りる。身体は浮かずに床に落ちる。数回繰り返し返した後、「そうだ、本を読み終わってから飛ぶから駄目なのかもしれない。聞きながら飛びばつまういくかも…」

となりで本を読んでいた姉に「Sちゃん、絵本のこを大きな声で読んでくれない？」と、絵本を渡して頼む。妹は姉の読む声にあわせて、両手を上下にばたばたさせて飛び降りる。前より少し先まで飛べたようだ。

「もう一度お願い」 何度か繰り返し返した。
姉が静かに言った。「Aちゃん、すずめの羽と人間の手は違うんじゃない」
鳥の羽ばたきをまねた飛行実験が終わった。

鳥のように空を飛びたい願望、スズメの親子の飛び方練習を観察してなぞってみる、そして人の手と翼のつくりの違いに気がつく。

老夫婦は、慌ただしく過ぎた子育ての頃を振り返った。